る中学校の内、奥津中学校、上齋原中学校、富中学校をそれぞれ平成22年度に鏡野中学校に統合するというものである。

本委員会としては、この手順を踏んだ諮問の重要性に鑑み、平成20年４月に鏡野町内の小中学校の保護者並びに地域住民の代表者等を対象とした「鏡野町立中学校統合に関するアンケート調査」を実施した。

その結果等を踏まえ、鏡野町立中学校統合についての課題を明らかにし、その解決策について慎重に検討し審議してきた。

ここに、９回に亘って審議した鏡野町立中学校統合推進のための方策について四つの視点を踏まえ、次のとおり答申する。

## 1 教育面

現今の少子高齢化社会の中にあって、本町もその例外ではなく中学校の生徒数の減少が著しく、この生徒達の将来における社会の適応性等を考えるとき、統合による多人数の生徒集団の中で、よい意味での競い合いを通して切磋琢磨し、意欲的に学び合うとともに、学年毎にクラス替えができる環境の中で多くの友人と幅広い交流を通して人間関係の機微にも触れ、人を思いやる心と多角的なものの見方を育むことが、生徒達の人間形成にとって極めて重要と考える。

また、部活動は生徒達の心身の成育に極めて重要な要素の一つであり、統合によりその選択肢が広がり希望する部に所属して個性の伸長を図り、人間形成に資することができる。

このように、多数の中で学ぶことの意義を考えるとき、その必要性の極めて高い中学生に、統合によるより良い教育環境の中で、より質の高い教育を受けさせることが極めて肝要と考える。

また、小規模校の良さであり大規模校で難とされる少人数指導、習熟度別指導等きめ細かい指導等に配意するため、町費教員等を配置してその指導に努める必要がある。

## 2 通学面

通学手段はスクールバス通学とする。寄宿舎は考えない。

通学時間は最長で50分超を要する（冬期は１時間超が考えられる）地域があり、その地域から通学する生徒の発達段階による肉体的・精神的負担を考える必要がある。

通学時間30分程度の地域は通学の実態もあり、可と考える。

帰り便は部活動に配慮し、２便とする。

冬期の通学については、特に積雪、凍結時の通学路管理に努め、除雪と安全確保に配意すること。

## 3 財政面

町当局の説明によると、町財政は危機的状況下にあり、行財政改革推進上、町立中学校の統合は避けて通れないとしている。

町は、町民の理解を得るため行財政改革の手順を町民に分かりやすく示すとともに、人事面も含めて聖域なき行財政改革を英断をもって実施し、町民と痛みを分かち合う姿勢を示すことが肝要で、重ねて町長への進言を要望する。